

OpenAI Deep Research

了解しました。AGC が発表した「生成 AI 活用環境で 11 万以上の業務時間創出」について、以下の点を詳しく調査します。

- 生成 AI 活用環境の詳細(使用されている技術やツール)
- AI 導入による業務への影響や効果
- 業務効率化の具体的な事例
- 他社との比較や市場への影響
- 関連する AGC の戦略や今後の展望

調査が完了次第、ご報告します。

AGC「生成 AI 活用環境で 11 万以上の業務時間創出」の詳細調査

生成 AI 活用環境「ChatAGC」の詳細

AGC は 2023 年 6 月に社内向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」の運用を開始しました ([社内向け対話型 AI「ChatAGC」を構築、運用開始 | ニュース | AGC](#))。この環境は Microsoft の Azure OpenAI Service を用いて構築されており、ChatGPT と同等の対話機能を持ちながら社内ネットワーク上で稼働するのが特徴です ([社内向け対話型 AI「ChatAGC」を構築、運用開始 | ニュース | AGC](#))。これにより、従業員が入力した機密情報が社外へ送信される心配がなく、データは AGC 内部に安全に保管されます ([社内向け対話型 AI「ChatAGC」を構築、運用開始 | ニュース | AGC](#))。また 2024 年 8 月には、RAG (Retrieval-Augmented Generation: 検索拡張生成) 技術を導入し、権限設定された社内データを ChatAGC と連携できるよう機能拡張しました ([世界最大級のガラスメーカー、自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」で得られた効果は? | TECH+\(テックプラス\)](#))。この RAG 機能により、社員は自分に与えられた権限範囲内の社内データをもとに AI から回答を得ることができ、社内の営業情報や顧客ニーズなど膨大なデータを効率よく活用できます ([自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」に、社内データ連携機能を付与 | ニュース | AGC](#))。ChatAGC は社内専用の「安全な ChatGPT」として位置づけられ、安心して業務利用できる環境を提供しています。

AI 導入による業務への影響・効果

AGC は生成 AI 環境の導入効果について、2024 年 1 月～12 月の 1 年間で**「業務時間 11 万時間以上の創出」に相当する効果**があったと発表しました ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。これは、ChatAGC の活用によって従来業務にかかっていた時間を大幅に削減できたことを示しています。AGC は社員へのアンケート調査に基づき、ChatAGC を利用した各業務で削減できた時間を積み上げることでこの数値を算出しました ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。主要な活用分野としては、**アイデア創出、文書要約、インサイト(洞察)抽出、文章チェック、文章分類、文章生成、機械翻訳、コード生成、情報検索**など多岐にわたります ([世界最大級のガラスメーカー、自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」で得られた効果は？ | TECH+\(テックプラス\)](#))。これらの分野で日常的に ChatAGC が使われた結果、社員一人ひとりの作業時間短縮が積み重なり、大きな業務効率化効果となりました。例えば文書の要約や翻訳といった作業を AI が担うことで、社員はより付加価値の高い業務に時間を振り向けられるようになっています。

特に 2024 年 8 月に社内データ連携機能(RAG)が追加された後は、社内に蓄積された情報を AI が即座に検索・要約できるようになり、更なる効率向上につながりました ([世界最大級のガラスメーカー、自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」で得られた効果は？ | TECH+\(テックプラス\)](#))。社内データ活用によって部門横断での情報共有も進み、ナレッジマネジメントの強化や新たな知見の発見といった効果も期待されています ([世界最大級のガラスメーカー、自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」で得られた効果は？ | TECH+\(テックプラス\)](#))。AGC は ChatAGC 導入当初から、メールマガジンでの情報発信や活用事例コンテスト、チャット上のコミュニティ設置、社内ポータルでの情報共有などを行い、社員の活用促進を図ってきました ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。こうした取り組みにより社員の AI 活用スキルが向上し、全社的な生産性向上に寄与していると言えます。

業務効率化の具体的な事例

ChatAGC の活用により具体的に効率化が実現した業務プロセスとして、AGC は社内でのユニークな事例をいくつか紹介しています。

- **競合他社や顧客情報の要約と報告書作成:** 社内に蓄積された競合他社やお客様に関する情報を ChatAGC で要約し、月次報告書の作成に活用 ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。これまで人手で行っていた大量の情報収集・要約作業が短時間で済むようになりました。
- **市場ニーズからの新規事業アイデア創出:** 顧客や市場のニーズ情報を AI に分析させ、新しい事業アイデアのヒントを得る ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。発想支援ツールとして ChatAGC を使うことで、企画部門などでのブレインストーミング効率が上がり、革新的な提案を生み出すスピードが向上しています。
- **会議中の情報即時取得と意思決定支援:** 会議の場で ChatAGC を活用し、議題に関連する最新のお客様情報を即座に収集して共有、課題の優先度を明確化 ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。会議参加者がリアルタイムに必要なデータにアクセスできるため、迅速かつ的確な意思決定が可能になりました。

さらに部門別の活用例として、**開発部門**では過去の開発・設計ナレッジを AI で検索し再利用したり、営業情報から顧客ニーズを把握して製品開発の着想を得たりしています ([自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」に、社内データ連携機能を付与 | ニュース | AGC](#))。**製造部門**では過去の製造トラブル事例データから対処法を即座に引き出し、迅速な問題解決に役立てています ([自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」に、社内データ連携機能を付与 | ニュース | AGC](#))。**営業部門**では現在開発中の新製品情報を AI 経由で把握し、顧客への提案タイミングを早めることができました ([自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」に、社内データ連携機能を付与 | ニュース | AGC](#))。**経営企画部門**でも顧客情報や知財情報をもとに AI がレポートを作成し、自社戦略立案の参考にするなど、各部門で業務プロセスの短縮・高度化の事例が生まれています ([自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」に、社内データ連携機能を付与 | ニュース | AGC](#))。

以上のように、ChatAGC は**情報収集・分析、文章作成、翻訳、プログラミング支援**など幅広いプロセスで**時間短縮や品質向上を実現**しており、合計 11 万時間以上もの業務効率化効果につながりました ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#)) (

他社との比較と AGC の強み

生成 AI の社内活用は AGC 以外の企業でも広がりつつあります。例えば、伊藤忠商事では 2023 年 7 月から全社的に ChatGPT を導入し、約 4,200 人の社員が業務効率化のために利用できるようにしています ([社内では ChatGPT を利用すべき！6 つの活用事例や注意点を解説](#))。また、小売業界のセブン-イレブン・ジャパンは Google Cloud 上に独自の生成 AI 基盤「セブン-イレブン AI ライブラリー」を構築し、全社員への展開を進めています ([セブン-イレブンの生成 AI 活用、乗り越えた課題や成果を得ている用途とは : マピオンニュースの注目トピック](#))。飲料メーカーのダイドードリンコでも社内業務に ChatGPT を導入し、定型業務の効率化や非定型業務の質向上といった成果を上げています ([【12 月最新版】ChatGPT を導入した日本企業の活用事例 84 選・24 ...](#))。

このように様々な業種で生成 AI 活用が進展していますが、AGC の「ChatAGC」にはいくつかの強みがあります。第一に、**社内データと連携した高度な活用**です。多くの企業は情報漏えいや機密保持の観点から外部 AI 利用に慎重ですが、AGC は Azure 上に自社専用環境を構築し、さらに RAG 機能で社内ナレッジを統合することで、安全かつ有用な AI 活用を実現しました ([社内向け対話型 AI「ChatAGC」を構築、運用開始 | ニュース | AGC](#)) ([世界最大級のガラスメーカー、自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」で得られた効果は？ | TECH+\(テックプラス\)](#))。この取り組みによって、競合他社に先駆けて**社内情報資産の有効活用と業務知識の共有**を進めている点は大きな強みです。

第二に、**効果の定量把握と全社展開力**です。AGC はアンケートを通じて AI 活用による時間削減効果を**「11 万時間以上」という具体的な数値で計測・公表した**初期の事例と言えます ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。このような定量的成果を示すことで社内外の理解と支持を得やすく、さらなる投資の裏付けにもなります。他社ではまだ実証段階で効果測定が不十分なケースも多い中、AGC は早くも具体的な成果を上げている点でリードしています。

第三に、**社内教育と活用促進策の充実**です。前述の通り AGC はプロジェクトチームを立ち上げ、社内メールマガジンやイベント、コミュニティを通じて活用ノウハウを共有するなど、社員のリテラシー向上に努めました ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#)) ([社内向け対話型 AI「ChatAGC」を構築、運用開始 | ニュース | AGC](#))。多くの企業が「生成 AI の社

内事例やノウハウ不足」を課題として挙げる中（[企業の生成 AI 活用、「卸売業、小売業」は 13.4%、「情報通信業」は 35.1% | ネットショップ担当者フォーラム](#)）、AGC は全社的な DX 文化醸成によってこの課題を克服しつつあります。これらの点で、AGC は同業他社や他業界企業と比較して**一步進んだ戦略的 AI 活用**を展開していると言えるでしょう。

市場・業界への影響

AGC の今回の発表は、日本の製造業界における生成 AI 活用の成功例として大きなインパクトを与えています。伝統的な素材・化学メーカーである AGC がデジタルトランスフォーメーションの一環として**最先端 AI を取り入れ、明確な成果を上げたこと**で、他の製造業企業にも AI 導入の機運が高まると考えられます。実際、日本企業全体でも生成 AI や自動化への投資は加速しており、ある調査では**「2026 年までに生成 AI への投資を拡大予定」と回答した企業が日本では 95%に上った**との結果もあります（[アクセントゥア最新調査—— AI 主導の業務プロセスを導入した企業は同業他社を上回る業績を達成](#)）。AGC の成功例は、このような投資判断を後押しし、業界全体の DX 推進を促進するでしょう。

また、**生成 AI 活用による競争優位**にも注目が集まります。Accenture の調査によれば、業務プロセスに AI を本格導入した企業は、そうでない企業に比べ**生産性が 2.4 倍高く、収益成長率も 2.5 倍に達する**というデータがあります（[アクセントゥア最新調査—— AI 主導の業務プロセスを導入した企業は同業他社を上回る業績を達成](#)）。AGC が示した 11 万時間の効率創出は、まさにこうした生産性向上の実例であり、業界内での競争力強化につながる成果です。AGC の取り組みに刺激を受け、同業他社も追隨して独自の AI 活用施策を進めれば、業界全体で生産性底上げと**新たな価値創出**が進むと期待されます。

さらに、AGC の ChatAGC は**知的資産の有効活用モデル**として市場に影響を与えています。従来は個人や部署内に留まりがちだった暗黙知・経験知を AI が引き出し共有することで、イノベーションのスピードを上げる効果が見込まれます。AGC が属する素材・化学分野のみならず、他の伝統産業においても「社内版 ChatGPT」のようなツールを構築する動きが広がれば、日本企業全体のデジタル競争力強化に寄与するでしょう。

AGC の今後の展望と戦略

AGC は中期経営計画「AGC plus-2026」において、「価値創造 DX の推進」を主要戦略の一つに掲げています ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。この中で生成 AI をはじめとするデジタル技術の活用による業務改革を継続し、自社の強みであるモノづくり力との融合をさらに加速させる方針です ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))。今回得られた成果を踏まえ、今後も ChatAGC の機能強化や利用拡大に向けた追加投資が見込まれます。例えば、さらなる社内データの連携範囲拡大や、AI モデルの高度化(より専門的な領域知識の付与や日本語性能の向上など)を検討していく可能性があります。AGC 自身、「お客様や社会にとって新たな価値の創出」を目指すコメントしており ([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#))、生成 AI 活用による新規事業開発やサービス創出にも力を入れていくでしょう。

人材面でも、社内の「生成 AI 活用探索プロジェクト」を通じて得られた知見を全社員に広げ、デジタル人材の育成を一層推進すると考えられます ([社内向け対話型 AI「ChatAGC」を構築、運用開始 | ニュース | AGC](#))。急速に進歩する AI 技術に人材育成が追いつかないことが多くの企業で課題となっていますが ([アクセンチュア最新調査—— AI 主導の業務プロセスを導入した企業は同業他社を上回る業績を達成](#))、AGC はプロンプトの使い方やユースケース共有といった施策を継続し、社員の AI リテラシー向上に努めるでしょう。さらに、社内で蓄積した生成 AI 活用ノウハウをグループ各社や海外拠点にも展開し、グローバル規模での DX 推進を図る可能性もあります。

総じて、AGC は今回の ChatAGC による成功を足がかりに、生成 AI への追加投資と戦略的活用を加速していく見込みです。2024 年以降も社内業務の更なる効率化はもちろん、顧客向けソリューションへの AI 適用や、新たなビジネスモデル創造へのチャレンジなど、生成 AI を軸としたイノベーション戦略を展開していくことでしょう。AGC の今後の動向は、同社のみならず業界全体の DX 進化において注視すべきものとなっています。

参考文献・情報源：

- AGC ニュースリリース「生成 AI 活用環境『ChatAGC』の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出」([生成 AI 活用環境「ChatAGC」の導入により、2024 年に 11 万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#)) ([生成 AI 活用環境](#)

[「ChatAGC」の導入により、2024年に11万時間以上を創出 | ニュース | AGC](#)

- AGC ニュースリリース「社内向け対話型 AI『ChatAGC』を構築、運用開始」
([社内向け対話型 AI「ChatAGC」を構築、運用開始 | ニュース | AGC](#)) ([社内向け対話型 AI「ChatAGC」を構築、運用開始 | ニュース | AGC](#))
- AGC ニュースリリース「自社向け生成 AI 活用環境『ChatAGC』に、社内データ連携機能を付与」
([自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」に、社内データ連携機能を付与 | ニュース | AGC](#)) ([自社向け生成 AI 活用環境「ChatAGC」に、社内データ連携機能を付与 | ニュース | AGC](#))
- マイナビニュース記事「世界最大級のガラスメーカー、自社向け生成 AI 活用環境“ChatAGC”で得られた効果は？」
([世界最大級のガラスメーカー、自社向け生成 AI 活用環境“ChatAGC”で得られた効果は？ | TECH+\(テックプラス\)](#)) ([世界最大級のガラスメーカー、自社向け生成 AI 活用環境“ChatAGC”で得られた効果は？ | TECH+\(テックプラス\)](#))
- Impress 記事「企業の生成 AI 活用状況調査」
([企業の生成 AI 活用、「卸売業、小売業」は 13.4%、「情報通信業」は 35.1% | ネットショップ担当者フォーラム](#)) ([企業の生成 AI 活用、「卸売業、小売業」は 13.4%、「情報通信業」は 35.1% | ネットショップ担当者フォーラム](#))
- アクセンチュアニュースリリース「AI 主導の業務プロセスを導入した企業は同業他社を上回る業績を達成」
([アクセンチュア最新調査—— AI 主導の業務プロセスを導入した企業は同業他社を上回る業績を達成](#))
- その他、伊藤忠商事やセブン-イレブン等の生成 AI 活用に関する報道
([社内では ChatGPT を利用すべき！6 つの活用事例や注意点を解説](#)) ([セブン-イレブンの生成 AI 活用、乗り越えた課題や成果を得ている用途とは : マピオンニュースの注目トピック](#))